

令和3年度第2回嘉麻市立図書館協議会 会議録

1. 審議会等の名称 令和3年度第2回嘉麻市立図書館協議会
2. 開催日時 令和3年11月4日(木曜日)午前11時00分～11時53分
3. 開催場所 嘉麻市嘉穂生涯学習センター 夢サイトかほ大研修室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
 - (1) 委員
 - ・下川和彦委員・中島暁子委員・坂口清春委員・近藤一崇委員・松尾正剛委員
 - ・北富真治委員・西田喜久代委員・松岡瞳子委員・春口香委員
 - (欠席)・・・坂本由美子委員
 - (2) 執行機関
生涯学習課
 - ・教育長 木本寛昭・課長 末永康洋・課長補佐(図書館長) 上野智裕・図書館係長 山本博子
 - ・図書館係 藤原千晶(図書司書)・図書館係 安藤かよ子(会計年度任用職員)
6. 傍聴人数 0人
7. 議題
 - (報告)
 - 1) 教育委員会点検・評価結果報告(令和2年度事業分)について
 - 2) 令和3年度事業経過報告について
 - 3) 第3次嘉麻市子ども読書活動推進計画の策定について
 - 4) 嘉麻市図書館指定管理業務委託に係る経過報告について
 - 5) その他
8. 審議の内容
(会議録の確認者の決定) → 西田委員に決定
 - 1) 教育委員会点検・評価結果報告(令和2年度事業分)について・・・原案のとおり承認
資料に基づき事務局から補足説明を行った。
(説明要点)
 - ・コロナ禍において、貸出者数や貸出冊数等の指標は目標値を大きく下回っているが、感染拡大防止策を講じつつ運営した点で自己評価を行った。
 - ・点検評価委員から、オンラインでのおはなし会等行ってはどうかと意見をいただいた。事務局からは「検討している間に、緊急事態宣言も解除されたことから実施していない。今後の状況をみながら引き続き検討していきたい。」と回答したが、図書館協議会から推薦した点検評価委員から、「ボランティアで読み聞かせ等行っている者と

しては、読み聞かせとはただ本を読むだけではなく、子どもの反応を見ながらやりとりを行うことが大切であるため、会議等とは違い、オンラインで行うのは少し趣旨が違うのではないかと思う」とのご意見もいただいた。

(質疑)

・サーマルタブレットとはどのようなものか。また「サーマルタブレット等」とあるが、コロナ対策としてサーマルタブレットの他に何かしているのか

県立図書館としては、手指消毒、検温、図書除菌機を導入している。また調べもの相談等で直接利用者の方と対峙する場合は、透明のフィルム等を張ったりしている。

⇒サーマルタブレットとは、入口から入ったところに設置していた体温を図るタブレットのことで、図書館4館に導入している。コロナ対策としては、入口のサーマルタブレット、手指消毒、カウンターのフィルムの設置、図書除菌機の導入、そして嘉麻市では次亜塩素酸水が用意されているため、それを使って館内の清掃や定期的なテーブルの消毒等を行っている。

・座席の調整はされているか。

⇒座席の調整は行っている。小さな丸テーブルでは座席を一つにしており、あまり大きなテーブルは使わない、または椅子をいくつか引いて、人数的にあまり多くの方が使えない状態にしている。物理的に人数制限を行っている。

基本的に国、県からの指示に基づき、市の対策会議で「身体的距離を1メートル、発声のある方からは2メートル」という対策を行っている。緊急事態宣言で当初は休館したが、皆様からのご意見もあり、緊急事態宣言が延長になったときに、予約の方のみ予約本の貸出を図書館前の入口で行った。これは利用者の方からも喜ばれ、議会の方からも取り上げられた。今後同じ様なことになった場合も、市民サービスの低下にならないように、創意工夫していきたいと思っている。

2) 令和3年度事業経過報告について・・・原案のとおり承認

資料(令和3年度事業経過報告)に基づき追加資料の説明及び補足説明を行った。

(説明要点)

・連携事業の項目に、中央公民館係が夏休みに開催した「ときめき学習」との連携事業を追加している。

・各事業は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて開催しており、おはなし会も定員を設けて少人数で開催している。

・読書講演会は開催予定日が緊急事態宣言中であったため中止とした。他の講座や研修会等については、引続き開催について検討していくこととしている。

・図書館見学等、学校からの依頼も増えており、可能な限り受け入れるよう各館で検討している。

(質疑)

・コロナ対策という面で、移動図書館車の運行に際して何か配慮したことはあるか。

⇒緊急事態宣言期間中は運休した。現在は保育所や施設の方でも、感染対策をしながら、少しずつ通常の行事を取り入れておられるようで、移動図書館車も概ね通常ど

おり運行させて頂いている。感染対策としては、返却本を除菌機や次亜塩素酸水等で消毒し、感染につながらないように配慮している。

・私も図書館のユーザーであり、休館になると寂しかった。2度目の休館時に、休館ではあるが、感染対策をしながら、「このサービスは行っている」とお知らせを出してくれた。これは的確な情報提供だと思った。出来ることは何か検討して行っているのだと感じた。

・他部署との連携事業でとても良い事と思う。図書館でいろいろな事業をやるということをごんごん進めていただきたい

・緊急事態宣言が解除され、利用できるようになって以降の利用状況は、以前と比べると少ないか、または回復しているか。

⇒具体的な数字は今手元に持っていないため、感覚的に申し上げると、緊急事態宣言解除後は爆発的に多い日もあった。利用者の皆様から、予約本を借りるのはもちろんだが、実際に館内で棚を見てから借りたいという意見も頂いており、開館直後はいつもより多い状況だった。

しかし、コロナの前からすると来館者は8割程度のイメージであり、やはり少し減ってきているように感じる。

・山田図書館に行ったときに、以前は新聞を読んだり、雑誌を読んだりしている人がいたが、そのような方は今も来られているか。

⇒来られているが、減っているように感じる。山田図書館が、一番利用者が減っているように感じる。工事に伴う6カ月の休館が大きかったかと思うが、その間はおはなし会も思うようにできない状態だったため、山田図書館のおはなし会の参加も少なくなっている。なにかしらの周知の方法を考えていかなければと思っている。

3) 第3次嘉麻市子ども読書活動推進計画の策定について・・・原案のとおり承認 (説明要点)

・資料に基づき、策定の概要及びスケジュールについて説明。

(質疑)

・アンケートの内容はどのようなものか。

⇒3歳児の保護者様に対してのアンケートには「本を読むようになったきっかけはどのような理由ですか」「どんなことをするとお子様が本を読むようになると思いますか」等の質問がある。また子どもたちは小学5年生と中学2年生を対象とし、「どのくらい本を読みますか」「本を読めない理由は」等の内容になっている。

・議事1、2も関連しての意見になるが、学校でも全国学力学習調査というのがあり、その中にも読書活動を問うような質問がいくつかある。その中で「家庭にどれくらい蔵書があるか」という、読んだ冊数ではなく蔵書状況をお尋ねする項目があり、そこで本校では国、県に比べて家庭の蔵書数が少ない傾向にあるということが分かった。読書の大切さというのは言うまでもなく、子どもたちが本を手にする機会を確保して

いくかということでは学校図書館の大切さもあるが、大人も子どももという観点からいけば公立図書館の存在は非常に重要だと思っている。先ほどの説明の中でも、公立図書館に足を運んでおられる方々が、コロナをきっかけで足が遠のいてしまったという話もあった。例えば話題の本が発売され、その本を手にしたと思ったときに、嘉麻市の中で、どこでその本が手にとれるのか。車に乗って買いに行ける方がいいが、それが難しい方は図書館を利用されている。学校図書館で子どもたちに本を手渡す活動は、学校の一つの取り組みとしてやっていくとして、地域の中で、公立図書館の中でも子どもに手渡すだけでなく大人の方への啓発活動を同時にやって行くというのはすごく大事だと思っている。家庭の中の本の冊数を増やしていきましょうということではなく、子どもたちが本を手にする機会が多くなり、また大人もそれに対して「いいことだ」と思う感性を啓発していくことが、嘉麻市の読書活動を推進していく中で根底になると思う。今後も子どもの読書推進計画を続けていく中で、教育アクションプラン等のベースの上で進めていくことを示すより良いのではないかと思う。

⇒ご指摘のとおり、小さい頃から本を読むということは、「大人が手渡す」ということが大変重要だと思う。今の図書館のアプローチとしては、映画化された本、ドラマ化された本、直木賞、芥川賞、本屋大賞をとった本は、発表があれば掲示や面置きするなど興味を持っていただけるような取り組みを全館で行っている。またご指摘いただいたように、子ども読書活動推進計画には大人の協力も不可欠ですので、そこも意識して作成していきたいと思っている。

⇒エビデンスを意識しながらやると一層読書活動が推進されていくのではないかというご意見については、そのとおりだと考えている。今回の子ども読書活動推進計画は規程で定められたものであり、子ども読書推進に特化した内容となっている。当然大人の方も含めて市全体で新たな読書に興味を持つ人を新たに掘り起こしていくことは永遠の課題である。図書館を利用して頂くことで教養を高めていただき、また子どもたちは学力向上、人格形成につなげていく。このことはアクションプランにも記載させて頂いている。これは来年度から民間の方にもお願いしながら図書の実用を図っていかうと計画しており、着実に進めている。今までは直営でいろいろやっていたが、今後は民間の知恵を借り、斬新なアイデアを入れながら嘉麻市全体の図書の活発な利用推進を図っていきたくと考えている。

・子どもの読書推進に関する法律の中では、子どもに「本を読め」というものではなく、本を読むことができる環境を大人がどう整備していくかについての法律だということが言われている。

・策定委員はどのような構成の方がおられるのか。

⇒策定委員は10名ほどで、主に庁内の関係部署の方に集まっています。例えばブックスタートに関連している母子保健係、市の全体的な関係から企画調整係、学校教育の関係の方や、保育所の方等の関係部署の皆様にお集まりいただき、図書館係が事務局となって策定会議を開いている。

・私は話題の図書や、読みたいと思う本を抜粋して、図書館をよく利用しているが、利用している中で、読みたいと思えるような工夫はされていると思っている。例えば、最近本の表紙をめくると帯ラベルが貼ってあるものが多く見られる等、以前より手に取りやすい、読みやすい、興味を持ちやすい工夫をいろいろしているということは痛感している。そして大人になって本を読む、読まないということについてだが、例えば友達に「図書館に行こう」と声をかけても「何しに行くの」と言われる。図書館は本を借りるところであり、私の考えとしては家の蔵書を増やしたくないので、大いに図書館を利用させていただき、楽しませてもらおうと思っている。

・今回、緊急事態宣言中に、予約本の貸出ができることが知られていなかった。学校関係はママ友で教えてもらっていたので、私も知人等には教えた人もいるがそのようなお知らせは配布されなかった。大人は広報誌やインターネット等で情報を得ることができるが、子どもは難しいこともあるため、図書館よりも学校から配布してもらえると良いと思う。

また大雨のときも臨時窓口を開設していたのに、表は「臨時休館」の表示だった。開館しているのに、そのことが市民に伝わっていない。伝えていただければ、それを知らせる手伝いはします。でも個人では力が小さいので、できればチラシの配布等していただけたらと思う。

⇒学社連携の観点からも学校との連携を意識し、あらゆる媒体を通してお知らせしていくことを心がけて取り組んでいきたい。

4) 嘉麻市立図書館指定管理業務委託に係る経過報告について・・・原案のとおり承認
(説明要点)

第1回協議会以降の経過を報告した。

5) その他
特になし

9. 配布資料

- ・令和3年度第2回嘉麻市立図書館協議会次第
- ・資料1 嘉麻市教育委員会点検・評価結果報告書(令和2年度事業分)(抜粋)
- ・資料2 令和3年度事業経過報告
- ・資料3 第3次嘉麻市子ども読書活動推進計画の策定について

上記に相違ないことを確認する。

令和4年6月11日

会議録確認者

西田喜久代